

「長野県中学校登山動向アンケート調査」のまとめ

長野県山岳総合センター

はじめに

長野県山岳総合センターは、直近では平成 25 年度に「長野県中学校集団登山動向調査」を行っている。

その調査から 4 年がたった今年度、平成 29 年度の長野県の中学校における集団登山の動向についてアンケート調査を実施した。

調査対象は、県下の公立中学校 188 校。すべての学校より回答をいただき集計した結果が以下の通りであった。

尚、中学校登山の実施状況については、毎年、長野県教育委員会教学指導課が「学校経営概要のまとめ 小中学校編」の中でまとめたものを公表している。

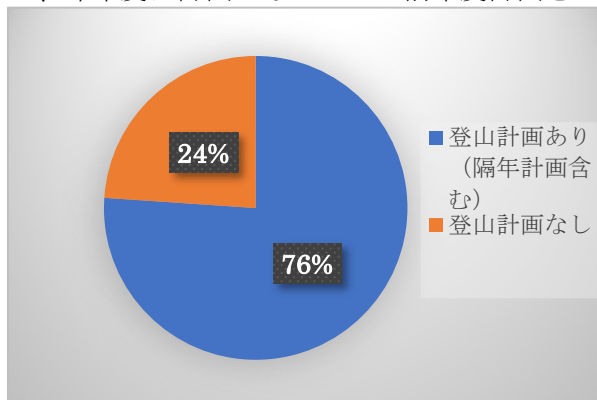
そこでは、①日数別実施校数 ②目的地別実施校数 ③学校登山における同行者（同行者の有無・同行者の内訳・同行者の経費・安全対策）についてまとめている。

こちらの資料も併せて御覧いただければと思う。

アンケート結果

1. 学校登山の計画の有無について

全 188 校中、学校登山を計画した学校は 129 校。小規模校等が隔年実施をしている関係で、今年度は計画しなかったが前年度計画をした学校が 14 校。あわせて 143 校。



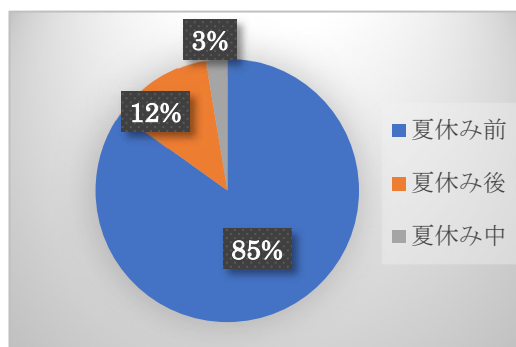
隔年実施の学校を含めて、平成 29 年度に学校登山を計画した学校の割合は、左のグラフの通り 76 パーセント。

学校登山を計画していない学校は、188 校中 45 校、率にして 24 パーセントだった。この中には、昨年までは計画していたが、今年度から学校登山をやらなくなったと記入してあった学校 6 校も含まれている。

2. 学校登山を計画した時期について

143 校中夏休み前に計画した学校が 120 校、夏休み後に計画した学校が 19 校あった。

夏休み中に計画した学校は 4 校あった。



3. 目的とした山について

目的とした山、山域別の学校数は下記の表のとおり。

尚、この目的とした山、山域名は、「学校経営概要のまとめ 小中学校編」の中でま
とめに利用している「目的別実施校数」の目的地と同じ選択肢とした。

具体的な山名については、今回のアンケート調査の際、各学校が記入した山名を記し
ている。

目的とした山、山域（具体的な山名）	学校数
中央アルプス（木曾駒ヶ岳）	29校
南アルプス（仙丈ヶ岳・小河内山）	3
八ヶ岳（硫黄岳・根石岳・赤岳・天狗岳・東天狗岳・蓼科山・茶臼山）	31
乗鞍岳	31
常念岳	5
燕岳	6
西穂高岳	3
爺ヶ岳	8
唐松岳（八方池・丸山ケルン含む）	20
岩菅山	1
苗場山	1
その他（鬼面山・根子岳・烏帽子岳・奥穂高岳）	5
	計 143校

*その他の中の烏帽子岳は、上田市と東御市の境にある山

4. 登山に同行した引率者の数について

登山に同行した引率者（教職員および教職員以外のガイド、医師、看護師等の同行者を
含む）の人数と、登山実施学年のクラス数を答えてもらい、1クラス当たりの引率者数を
調べた。

その結果、1クラス当たり 3.7 人の引率者数という結果だった。

5. 同行したガイドについて

(1) 同行したガイドの有無について

ガイドが同行した学校は、143校中 136校。同行しなかった学校は7校のみであっ
た。

(2) 「信州登山案内人」が登山に同行したかについて

信州登山案内人が同行したと確認できた学校は 136校中 74校。「信州登山案内人の
方かどうか確認できない」という学校は 17校あった。

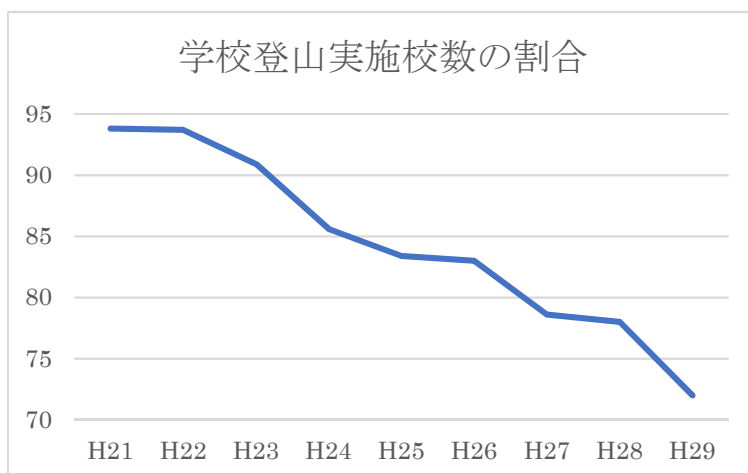
信州登山案内人がガイドとして同行した学校は、ガイドが同行した学校の半数を超え
ている。

アンケート結果の過去の調査等との比較、分析及び考察

1. 学校登山の計画の有無について

平成 29 年度、長野県の中学校で学校登山の計画した学校数（隔年で計画している学校 14 校を入れて）143 校、割合で 76 パーセントという結果を、前回平成 25 年度の調査と比べると、校数で 27 校、率で 11 パーセント減少している

前々回の平成 22 年度の調査までは、9 割近い中学校が学校登山を計画していたが、その後学校登山を実施しなくなった学校が増え、9 割を大きく下回ってきている。

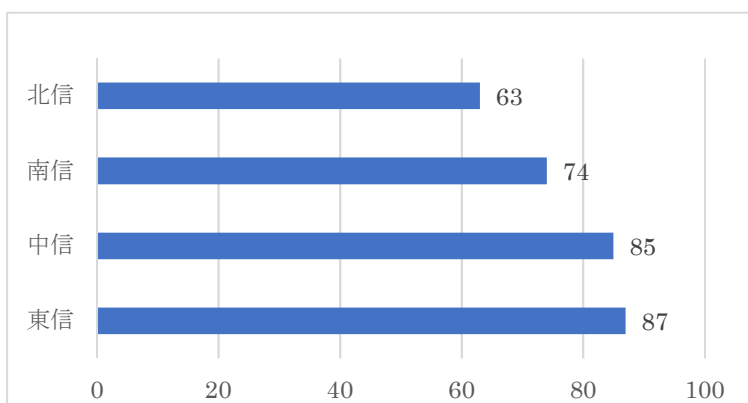


左の折れ線グラフは、「学校経営概要のまとめ 小中学校編」の資料より作成したものである。

この資料では、平成 29 年度の学校登山実施校数は 134 校、割合で 72 パーセントになっている。当センターの 76 パーセントとこの数字との違いは、隔年実施の学校をカウントしていないがためと思われる。

いずれにしても、平成 29 年度の長野県の中学校登山の実施校数の割合は、75 パーセント前後となっているといえる。

「学校経営概要のまとめ 小中学校編」の資料でも、当センターの調査結果と同様に、平成 23 年度以降から実施校数の割合が 90 パーセントを下回ってきている。



平成 29 年度、長野県内の地域別にみた学校登山を計画した割合は左のグラフの通り。

地域分けについては、国立・県立中学校は、所在地で分類し、他の公立中学校は、北信・南信・中信・東信のどの教育事務所管内にあるかで分類した。

計画している学校の割合が一番多かったのは東信の 87 パーセント。逆に一番低かったのは、北信の 63 パーセントという結果だった。

地域によって 24%の違いがみられた。

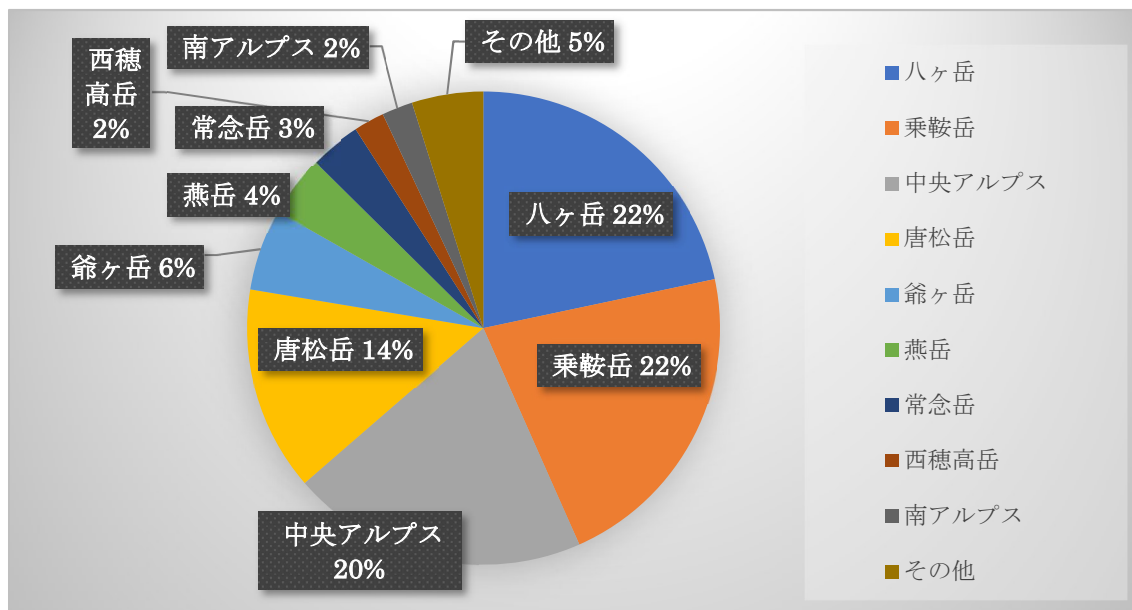
グラフにはないが、計画した学校の割合が 74 パーセントの南信教育事務所管内を地区別に分けてみると、伊那・諏訪地区は 97 パーセントに対して、飯田地区は 45 パーセントと、同じ教育事務所管内でも地区によって大きな違いがみられた。

2. 学校登山を計画した時期について

長野県内では、夏休み前に学校登山を計画している学校が 85 パーセントという結果。このうち何校かは雨天等で日程が延期となり、夏休み後に登山を実施したものと思われる。

夏休み明けは、各学校で文化祭に向けた準備がスタートすることもあり、夏休み前に学校登山を計画している学校が多いのだろう。

3. 目的とした山について



目的とした山で一番多かったのは、八ヶ岳と乗鞍岳。この八ヶ岳の中には、硫黄岳、根石岳、天狗岳、東天狗岳、赤岳、蓼科山、茶臼岳が含まれる。

中央アルプスは、29 校すべての学校が木曾駒ヶ岳であった。

唐松岳と答えた学校の中には、唐松岳山頂ではなく丸山ケルンまでの学校や八方池までの学校も含まれている。

南アルプスと答えた学校は 3 校あったが、そのうち 2 校が仙丈ヶ岳、1 校が小河内岳だった。

その他の山を登っている学校は、岩菅山 1 校、苗場山 1 校、鬼面山 1 校、根子岳 1 校、烏帽子岳 1 校、奥穂高岳 2 校の計 7 校。

次の表は、平成 4 年から当センターが数年毎に調査してきたものをまとめたである。

ここ 20 年ほどの間に登る学校数が大きく変わった山は、唐松岳周辺（H4 は 1 校→H29 は 20 校に増加）、燕岳（H4 は 31 校→H29 は 6 校に減少）、仙丈ヶ岳（H15・H18 は 10 校→H29 は 2 校）、赤岳（H4 は 9 校→H29 は 1 校に減少）。

この 4 つの山の中でも特に唐松岳周辺は、平成 4 年には 1 校しか登っていなかったが、10 年ほどの間に登る学校が急激の増え、その状態が現在も続いていることがわかる。

山名	H29計画した学校数	H25	H22	H18	H15	H4
硫黄岳周辺	28	37	39	33	36	24
乗鞍岳	31	33	34	23	22	25
唐松岳周辺	20	26	26	32	29	1
西駒ヶ岳	29	18	20	19	26	32
燕岳	6	10	11	12	13	31
爺ヶ岳	8	9	10	9	12	6
御嶽山	0	9	9	8	11	4
仙丈ヶ岳	2	5	8	10	10	5
常念岳	5	6	5	0	6	6
西穂高岳	3	3	2	4	7	3
赤岳	1	3	2	1	4	9

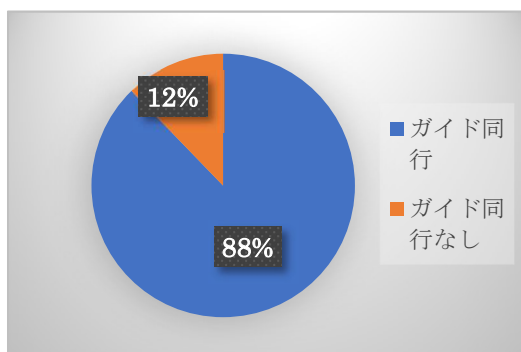
4. 登山に同行した引率者の数について

1クラス当たり3.7人の引率者という結果だったが、各学校の生徒数は答えてもらっていないので、引率者一人当たりの生徒数についてはここではわからない。

また、引率者の数については、過去の調査では調べていないので、過去とは比較できない。

5. 同行したガイドについて

(1) 同行したガイドの有無について



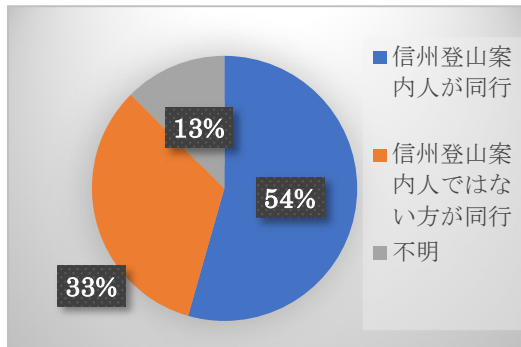
9割に近い学校が、ガイド同行の学校登山を実施している。

左下の表は、当センターの調査による「ガイド・案内人」を依頼した学校の割合の推移を示したものである。

平成22年の調査で80パーセントを超えた数字が、最近では90パーセント近くまで増えてきている。

年度	H25	H22	H18	H16	H15	H4
割合(%)	81	84	78	75	59	37

(2) 「信州登山案内人」が登山に同行したかについて



信州登山案内人が同行した学校は、ガイドが同行した学校の54パーセントと半数を超えていた。

平成29年度「学校経営概要のまとめ 小中学校編」では、信州登山案内人が同行した学校は11校(7.7パーセント)となっていて、当センターのアンケート調査の結果と大きな差異がある。各学校のアンケート回答者が、「信州登山案内人」についての確認を十分にしていなかったためと考えられる。

最後に

平成 23 年度前後に 90 パーセントを割った長野県の中学校登山実施率が、その後毎年減り、平成 29 年度には 75 パーセント前後まで減少してきている。

ここ 7～8 年の間の減少率は、かつてなかった特別な状態といえる。

このような状況の今、「学校登山」について今一度考えてみる必要がある時期に来ているのではないだろうか。学校登山の意義を確認したり、学校現場からの意見を聞いたりすること、また子どもたちにとって安全で楽しい登山にするためにはどうしたらよいかといった点について、いろいろな立場の方が意見を出し合う場をつくる必要があると考える。

当センターでは、2014 年～2016 年の 3 年間、学校登山における生徒の意識について調査を実施した。（調査結果については、当センターのホームページに掲載）

その中で、生徒たちにとっての学校登山は、山の自然に感動する場、友達と過ごす山小屋での生活を楽しむ場であることがわかった。また、友達と一緒に山へ登るという経験を通して、普段の生活ではなかなか学べないこと、例えば、学校生活の中ではなかなか気づけない友達の良さや、友達と共有する達成感といったものを学んでいるというようなこともわかった。意識調査のアンケートの自由記述欄に、「友達と話しながら楽しく登れて、一人で登るより何倍も楽しかった」「登山を通して、友達が支えてくれたり優しくなったりと、友達の良いところがたくさんわかったのでとても良かった」と感想を書いている生徒もいた。登山という非日常的な行為の中で、普段の学校生活ではなかなか味わえない経験を友達と一緒にしたからこそその感想と言えよう。

このような感想が出てくる学校登山は、子どもたちにとっては意義のある教育活動と考える。学校登山が長野県の学校教育の中で脈々と受け継がれてきたのも、その意義を認めてきたからに違いない。

また、長野県では、平成 26 年に「信州の山」に感謝し、山を守り、育て、活かしながら次世代に引き継いでいくため、7 月の第 4 日曜日を「信州 山の日」と定めた。この「信州 山の日」制定に向けた検討経過の中で、本県特有の学校登山など、「山」に親しむ機会の創出が必要という課題が出されている。（長野県ホームページの「信州 山の日」の制定について より）

しかし学校登山に限って言えば、機会の創出どころか大幅な減少という方向に進んでいるのが実態である。

来年度、当センターでは新たな試みとして、「中学生登山教室」を計画している。今まで小学生を対象とした登山教室を実施してきたが、中学生を対象にした登山教室は初めての試みである。

この教室は、決して学校登山に代わるものにはならないが、学校登山を考える一つの契機になればと思う。

最後に、今回の調査に協力いただいた県内 188 校の中学校にお礼申し上げる。